

クリーンパーク茂原の火災について

1 経過

令和4年2月	1日	火災発生, ごみ受入れ停止 損傷状況調査
4月28日	～	復旧工事 着工 (当初工期: 10月下旬)
10月21日	～	ごみピットコンクリート壁の強度調査 ⇒ 壁の強度に懸念がある箇所が2箇所判明
3月1日	～	専門家調査 ⇒ 早急な補修が必要
11月11日	～	追加工事 (コンクリート壁補修) 着工
12月23日		復旧工事 完了
2月24日	～	ごみ受入れ再開

2 火災の概要

(1) 出火原因

不明

※ 出火原因については、消防局による調査においても、火災の危険性のあるごみが複数混入されていることが確認されており、スプレー缶やライター、リチウムイオン電池等がクレーン作業等による摩擦や衝撃などにより火花等を生じ、可燃物へ着火し、出火したものと推察される。

(2) 施設の損傷状況

ごみクレーン等に甚大な被害を受け、当施設の焼却ごみ処理が停止したことにより、本市の焼却ごみ処理能力の約7割が失われた。

3 復旧工事内容

設備等	数量	主な内容
ごみクレーン	2基	バケット・モーターの分解整備 制御装置・ケーブルの更新
放水銃	1基	ごみピット内の消火用放水銃の分解整備
消防設備	1式	火災覚知システム等の更新
監視カメラ	5台	ごみピット監視用2台, ごみホップ監視用3台の更新
その他設備	1式	ごみピット天井部の開閉工事 ごみピット上部の照明設備・天窓の更新 クレーン操作室・見学者通路の窓ガラス更新
追加工事	1式	ごみピットコンクリート壁2箇所の補修工事

4 焼却ごみの外部処理

クリーンセンター下田原で処理しきれない焼却ごみについては、他自治体5施設や民間7施設に処理を委託した。

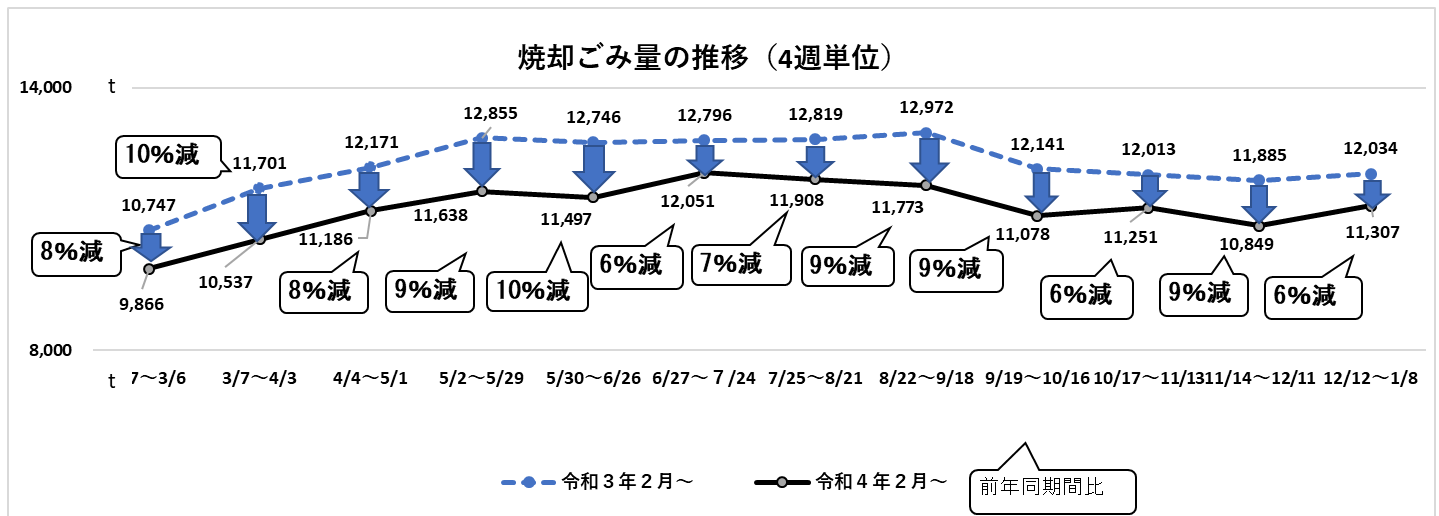
※ 外部処理量: 約8.6万トン (令和4年2月～12月)

5 焼却ごみ削減施策について

新聞折込チラシやデジタルサイネージなど様々な媒体を活用した周知啓発、生ごみ処理機設置費補助制度の拡充（令和5年3月まで 補助率：1/2⇒9/10，上限額：電動式30,000円⇒60,000円，非電動式5,000円⇒10,000円），水切り器の無料配布等を行い，市民・事業者へ燃えるごみ5割削減の協力依頼を実施した結果，概ね1割削減となった。

生ごみ処理機補助件数（12月末）：電動式 約4,000台
非電動式 約1,000台

生ごみ水切り器：25,000個配布



6 再発防止策

(1) 運営体制

火災覚知システムだけに頼ることなく，システムを補完するための仕組みを構築するため，人的な監視体制の強化や各種マニュアルの見直しを実施

(2) 消防設備

火災を速やかに覚知することや，より効果的な初期消火をするため，火災覚知システムの更新や自動放水銃を導入

(3) 電池類の分別収集

今までごみステーションに出せなかった，家庭から排出される「充電式電池」や「モバイルバッテリー」等を令和5年度より「危険ごみ」としてごみステーション収集を実施（本日の協議事項）

(4) その他

緊急時の速やかなごみ受入れ先確保のため，周辺自治体との協定締結など，更なる連携強化を図る。